

移転開院1年経過、新たな取り組み 開院後の医師確保の状況

◎ 移転開院して一年が経過しましたが、現状を教えてください。

▲ 開院当初は、常勤医師が少なかったことや電子カルテを導入してスタッフの不慣れであったことなどから、待ち時間が長く大変ご迷惑をおかけした患者さまも居りましたが、その後、十分とまでは言えませんが、医師の確保もでき、建物や設備のハード面の充実につき、ソフト面でも充実してきました。また、待ち時間についても予約診療・救急外来においては、ほぼ解消しております。

◎ ソフト面の充実について具体的に教えてください。

▲ 昨年11月に循環器内科の由布医師にきていただく

き、永吉医師と2人体制になったことで、カテーテル治療（ステント留置術）をはじめ、熊本市内の循環器専門施設とほぼ同様の検査・治療が可能となりました。

さらに本年4月からは4名の医師に来ていただくことができました。

通常の診療とは別に消化器外科の中川医師は、患者さまに負担の少ない腹腔鏡下手術の実施、神経内科の渡邊医師は、MRI装置を使用した早期アルツハイマー型認知症診断、内科の宮本医師は、救急科専門医でもあることからDMAT隊の資格取得、同じく内科の稲田医師は、自治医大卒業で地域医療の経験が豊富であることから波野診療所の所長を兼務していただくなど本院の医療機能は、確実に向上しています。

また、急性期の脳梗塞に有用なt-PA治療（血栓溶解療法）も10件以上の実績となり、治療後は後遺症もなく日常生活を取り戻されています。

◎ 新たな取り組みについて教えてください。

▲ がん化学療法の実施をはじめ、本年4月からは阿蘇地域で疾病の割合が高い糖尿病の専門外来を新設し、さらに7月からは睡眠時無呼吸症候群の専門外来の開設や内視鏡検査の拡充を図っています。

また、阿蘇地域の予防医療の一助となるよう健診の充実や出前講座の実施に取り組んでいます。

今後も、本院の取り組みなどについて「阿蘇医療センター通信」でご紹介していきたいと思えます。

医師紹介



てつお 由布哲夫

【循環器内科】

研修指導医、日本内科学会認定医
日本血管インターベンション治療認定医



まさひで 中川真英

【消化器外科、一般外科】

産業医、日本外科学会専門医
日本外科学会認定医



まこと 宮本 誠

【内科、DMAT 隊員】

産業医、救急科専門医
プライマリケア認定・指導医



ひろふみ 渡邊裕文

【神経内科】

日本内科学会認定医、日本内科学会専門医、日本神経学会専門医



けいすけ 稲田啓介

【内科】

研修指導医、波野診療所長
プライマリケア認定医

阿蘇医療センターになって、5名の医師が新たに常勤で勤務しています。(写真付で紹介) これまで、阿蘇中央病院から支えてきた湯本信也副院長、橋山元浩医局長、永吉靖央医師同様、よろしくをお願いします。

INTERVIEW



阿蘇市病院事業管理者
阿蘇医療センター院長

甲斐 豊

【脳神経外科全般、脳血管障害、脳血管内治療】

家族や身近な人との関係を見つめ直し、
人権や差別について話し合う機会を持ちましょう。

人権作文

「友だち」と「学校」

波野中学校3年 加藤菜々なな

私の通っている波野中学校は、保育園、小学
校、中学校と、ほとんどの生徒が「幼なじみ」で
す。中には付き合いが十年以上にもなる生徒
もいます。また、人数も少ないため、クラス替
えもありません。皆さんは「幼なじみ」なら
ば、「全員の仲良し」そんなイメージはありませ
んか。私は今まで皆が仲良しだと思っていま
した。お互いのことを良く知っているつもり
でした。しかし、あることがきっかけで、自分
に必要なものに気付くことができました。こ
れから、私の体験を述べたいと思います。私
は、陸上部に入部しています。入部した理由
は、元々スポーツが好きだったこと「幼なじ
み」が陸上部に入ろうとしていたからです。彼
女は、保育園から十一年も一緒にいる友だち
です。私ができないことを何でもこなす彼女
に、「私もあんな風になれたらいいな。」と少し
憧れの感情を抱いていました。中学生になり、
同じ場所でごんばりたいと思った私は、陸上
部に入ることを決心しました。

小学校から中学校に上がっても、彼女の運
動能力はものすごく高く、二年生になると差
も大きくなりました。私は、思うようにタイム
が伸びず、「なぜ、自分はできないのだろう。」
と考え込むようになりました。そんなときに、
いつものように接してくる彼女が嫌になり、
段々と距離を置くようになってしまいました。
た。
もし、そのときに自分の気持ちを吐き出す

ことができているれば、十年以上も一緒にいた
大切な友だちと気まずい関係にならなかつ
たのではないかと後悔しています。私に必要
だったものは、自分の気持ちを相手に伝える
という勇気でした。

このような体験を通して、私が感じたこと
は、お互いが気持ちを伝え合うことがとても
大事だということです。自分の気持ちを伝え
ないでいると、その人との大切な時間を失っ
てしまうこともあります。もし、勇気を持ってな
くて自分の気持ちを相手に伝えられずに悩ん
でいる人がいたら、私は、この言葉を教えてあ
げたいです。「勇気は一秒、後悔は一生。」この
言葉は、私が大好きな小説のセリフです。誰
の、どんな状況にもこの言葉は当てはまると
思います。今、私は、少しずつですが大切な友
だちとの距離を縮めようとしていますが、いま
す。自分の気持ちを伝えられるよう、「勇気は
一秒、後悔は一生。」を胸にこれから成長して
いきたいと思っています。

先生からのコメント

この作文は、菜々さんがこれまでの九
年間同じクラスをとみにしてきた「幼な
じみ」との関係を見つめ直したものです。
いつも一緒にいるからこそ言えなかった
ことが少しずつ伝え合えるようになって
います。私も一歩を踏み出す勇気を菜々
さんにもらった気がします。

人権作文

平成26年度 阿蘇市人権作文集「かけはし」より ※学年は平成26年度時点。

塗装・防水工事・メンテナンス

 株式会社 井上

〒869-2302
熊本県阿蘇市三久保448番地22
web <http://www.aso-inoue.com/>
E-mail info@aso-inoue.com



塗装内容
(屋根・壁・破風板・軒天・デッキ・塀・他)

防水内容
(雨漏れ調査・屋上・ベランダ・コーキング・他)

-お見積・調査 無料-

もしも 0967-32-1501

広告